

# あすなろ

## 第 22 号

発行 弘前大学教育学部  
同窓会  
〒036-8224 弘前市大字文京町1  
TEL. 0172 (36) 2111代表  
編集事務局  
弘前市高杉字五反田191  
弘前市立北辰中学校内  
TEL. 0172 (95) 2019



新緑の弘前大学教育学部校舎



### 学校教育をめぐる 諸問題と教育改革の行方

弘前大学教育学部同窓会

会長 木村 清之助

近年にない連日の寒波と大雪で、除雪の苦勞と愚痴で始まったような二十一世紀ですが、会員の皆様にはご健勝でお仕事にご精励のことと拝察いたします。

かねてから本会で支援して参りました大学院ですが、残っている数学科と技術科の開設が学部のご努力により十三年度より決まり、長い道程でしたがこれで総ての教科に大学院ができることになりました。開設の喜びと共に今後一層の内容の充実を期待したいと思います。

最近、教育のみならず社会問題として青少年に関わる問題が話題になることが多いのですが、それに関連して出てくるのが「教育改革」という言葉です。その具体的な案の中には、教育の現場をわかっていないのではないかと、と思われるようなことが時々みられるということがあります。当を得たものもあるが現場感覚からすると何かはずれのような感じのものがあったり、また先進国といわれる国の中で大変な学力低下を招き、失敗した路線をいま我が国が進もうとしているように見えたり、ただ社会の風潮に迎合することなく、不易流行をしっかり見極めて欲しいものだ、などがです。

人により様々な意見があると思いますが、二十一世紀を担う子どもたちのために、教育関係者ということだけでなく、国民の一人として関心をもって見守り、機会あるごとに発言していきたいものです。



## 新世紀の教育を見すえて

教育学部長 小澤 薫

皆様方におかれましては、二一世紀という大きな節目を迎えられ、感慨も新たにお過ごしのことと存じ上げます。

弘前大学教育学部も、新たな理念の下に減量大改組を行ってから、早くも一〇ヶ月になりました。新時代の要請に応えながら、未来を切り拓いて行くためには、まだまだ解決しなければならぬ課題が沢山ありますが、目下のところ学部・附属校園等全スタッフの大きな努力と協力により、しっかりとした足どりで歩を進めております。

新聞報道等でご存知のことと思いますが、入学志願者倍率も大幅にアップされており、教員採用試験の合格率も上昇傾向がみられます。

四月からは、大学院の数学と技術教育専修が発足しますので学校教育及び一般の専修の専修総てが揃うこととなります。

さらに、教育実践研究指導センターが、二部門四領域から成る教育実践総合センターに格上げされ、現在の教育実践、教育実習及び情報教育・情報システムに関する業務の他、新たに児童・生徒の発達と理解、教育相談及び教育社会環境等に関することが加わります。

このようにして学部、大学院、附属校園の教育研究に関しては勿論、現職教員研修や不適応児童・生徒の対応等についても、より広く、深く貢献できることとなります。

本年の総合的公開事業としては、新時代の教育・教員養成の在り方等を考えるために、協同教育研究推進委員会が中心となって、一月ははじめの三日間にわたり「二〇〇一教育フェスティバル」を開催することにしております。

また、平成一四年度に向けては、大学院保健体育専修の保健・養護系を養護教育専攻として独立させる計画を立てております。養護教諭養成課程は全国で八大学、東北地区では本教育学部にのみ置かれていたものであり、社会的要請からしても是非実現させたいと考えております。

他方、第一〇次定削減実施による教職員数の減員や国立大学の独立行政法人化問題、教育学部の統合再々編成問題等多くの課題を抱えておりますが、在学生に対する一層きめ細かな各種の教育的配慮も重要課題です。それに必要な人手と資金の確保もまた深刻度を増しております。

本年も変わらぬご理解とご支援をいただきますようお願い申し上げます。

平成12年度附属中公開研究集会記念講演(H12・11・18)

## 『これからの教育を考える』

文部科学省審議官 寺 脇 研氏

講演より抜粋

〈はじめに〉

学校教育の在り方は全国画一ではないし、全国画一は無理。今は地方分権の時代である。成熟した民主主義になってきた今の時代に『弘前ではどんな学校にしたいと考えているか』『これからどうやっていくのか』が大事である。

〈学習指導要領は最低基準〉

学習指導要領は最低基準である。これを越えて指導してもよい。最低基準ということは、ゆっくり教えることによつて内容を減らし、一斉指導をやめて個別指導を増やすということ。画一・一斉・一律的でない指導へということ。

〈高校入試の方向性〉

高校入試を二つの面で見ると。大学入試のセンター試験にあたるようなテストで指導要領の内容が身に付いているかどうか調べるのが一つ。もう一つは、学習指導要領以外でどんなことを身につけたかを見るテスト。総合や選択で何ができたかを実技やプレゼンテーションまたは推薦といった形で聞いていく。

〈内容三割減と公立離れ〉

公立の先生を信頼していないから公立

離れがおきる。私は、今の公立の先生で新学習指導要領が実施できるかと聞かれたら「できます」と答える。そして「もう一度学校を信頼してください」とお願いしている。学校は多方面から見られている。学校・授業をオープンにすることを恐れてはいけぬ。みんながサポーターになれるように学校は何をやっているのか説明する責任がある。

〈学校を評価するのは国民〉

上からの評価はもはや死語。学校の評価は国民が行うもの。国民対文部省・現場という図式が変わる。公費を投じて成果を上げているかという評価がなされる。

〈日本の子どもはグライダール〉

日本の子どもは最初は引つ張られて高く飛んでいるが、自分のエンジンを積んでいなくなるから次第に下降してくる。先に教育の方が大事。小学校こそ大事。教育によって人格に影響を与えられるのは小学校だ。

子どもがやりたいものを見つづけるのが根っこである小・中学校である。勉強は自分のためにやるのだと実感させるのが小・中学校だ。文部省と現場の力が合つてこそできるものである。

大学院教育学研究科だより

教育学研究運営委員会

委員長 加藤 陽 治

同窓会の皆様如何お過ごしでしょうか。また、教育学部研究科の修了生の皆様、お元気で過ごしてでしょうか。

平成六年に学校教育学専攻(学校教育専修)と教科教育学専攻(国語教育、音楽教育、保健体育、家政教育、及び英語教育の五専修)でスタートした教育学研究科は、その後、平成十一年に社会科教育、理科教育及び美術教育の三専修が増設され、さらに、本年四月から数学教育と技術教育の二専修が加わり、念願だった大学院全専修設置が完成しました。これま

入学者数

Table with columns for Academic Year (6th to 13th) and rows for Specialization (School Education, Education Studies, etc.) and Total.

\*13年度は入学予定者数で、数学と技術は4月入試実施 ( )内の数は、現職教員で内数 < >内の数は、外国人留学生の内数

就職・進学数

Table with columns for Academic Year (8th to 12th) and rows for Specialization (School Education, Education Studies, etc.) and Total.

\*社会人(現職教員)を除く Aは公立学校教員採用者 Bは公立学校教員臨時採用者 Cはその他の職種に就職 Dは進学 Eはその他

での入学者数をご覧いただくとおわかりいただけると思いますが、お陰様で、毎年、定員以上の学生を迎え入れることができっております。現職の先生をはじめとする一般社会人、留学生、学部からの進学者等、年齢、分野、経歴に多様性が見られていきます。この多様性があるという点でよい成果を生んでいるように思われます。修了者の就職状況(現職教員を除く)を見てみますと教員採用に関して厳しい状況にあるようです。しかし、大学院の果たさなければならぬ役割はこれからも大きくなることは確実です。現在、養護教育専攻設置や臨床心理士養成指定大学院に向けたさらなる整備計画を進めております。同窓の皆様より一層のご支援をお願い致します。

教育学部と国際交流

学部国際交流委員長

小山 秀 哉

日頃学部の国際交流に関していろいろとお世話いただき感謝いたします。

ご存じのように国際化の時代であり、その影響は学部にも及んで国際交流が年々盛んになってきております。留学生については現在、中国、フランス、ハンガリー、台湾各国から院生、学部生、研究生など合わせて十一名が在学中で、今年度で修了する何人かの研究成果を載せた「教育学部留学生研究報告」が年度末に刊行される予定です。

本学と協定を結んでいる海外の大学には何名か留学しておりますし、さらに今年度は、メイン州立大学に本学部学生二十九名を含む三二名の弘前大学学生が第一回外国語コミュニケーション集中講座を受講するためウエスタホーベン助教授の引率で二月に三週間滞在します。

来年度は、UTM(テネシー大学マーン校)からの客員教授を本学部がお世話して講演等をお願いする予定です。学部の理科教育の山下助教が同大学に客員教授として派遣されることが決まるなど教員の国際交流も行なわれます。

アメリカの初等・中等教員、教育関係者を対象として日本の教育制度と文化を体験してもらうために、日本政府があら



「米国からのフルブライト招へい 教育訪問団の「美術教育学研究」体験風景」

たに設立したフルブライト・メモリアル基金「教育者招聘プログラム」があり、その一環として今年度六、十、十一月の三回にわたって二十名ずつのグループが学部を訪れました。数年前ロシアのハバロフスク教育大学の学生と先生方のグループの訪問をお世話したことがあります。今回の「招聘プログラム」のメンバーは教員や教育関係者であり多人数でしたが、ロシアの訪問団来学時の経験、そして学部長はじめ教職員の協力のお陰で無事にお世話することができました。「教育者招聘」団の訪問は単年度の予定でしたが、何故か来年度もという依頼が関係団体からあり、「一難去ってまた一難」といった心境です。以上、学部の国際交流の近況を報告させていただきます。(平成十三年二月)

平成十三年度  
**教員採用試験**について

教育学部就職対策委員長 星 邦 男

平成十三年度採用試験の結果

平成十三年度の青森県採用予定者数は全体で二百二十五名、前回より十五名の減少でした。これに弘前大学から新規卒業生(研究科を含む)百九十一名、過年度三百九十一名が挑みました。

結果が判明したのは十一月になってからですが、今回は全体で昨年より六名増の七十一名(新卒二十一名、既卒五十名)が合格しました。これを受験者数との関係、すなわち合格率で見ると、新卒は前回と比較して三パーセントのアップ、既卒は受験者数が増加したため、二パーセントのダウンでした。この結果、全体の合格率はほぼ昨年並み(〇・一ポイントの減少)となりました。これは、最終的な採用者数が二百三十一名で、昨年より約三パーセント少なくなったことを考慮すれば、まずまずの成績といえることができます。

単純に計算した場合、採用者数が三ポイント減であれば、合格率もそれと同じであって現状維持といえます。これを〇・一ポイント減で抑えたということで、本学部の学生たちが、不利な状況を克服し、昨年以上の健闘ぶりを見せたことみなすことができます。なお、県外の合格者数は岩手県、神奈川県など、合わせて九名でした(県外は新卒者のみの数)。

平成十二年度採用試験のその後

平成十二年度の結果については「あすなる第二十一号」でお伝えしましたが、その後四月になって、県教委より、本学部から採用された臨時講師と非常勤講師の資料をいただきました。それによれば、全体では本採用が六十五名、臨時講師が百四十六名、非常勤講師が二十三名で、計二百三十四名となっています。この数は、青森県内の公立学校のうち、ほぼ三校に一枚の割合で、本学部の卒業生が新たに配属されたということを意味しています。卒業生諸君の、教育現場での活躍に期待したものです。

なお、平成十二年度に関して、文部科学省が教育養成課程を持つ国立大学の教

平成12年度  
 臨時及び正式採用者の順位

順位	大学名	採用率	順位	大学名	採用率
1	兵庫教育	50.5	24	千葉	31.0
2	信州	50.2	25	山口	30.9
3	福島	49.8	26	滋賀	30.3
4	愛知教育	48.2	27	岡山	30.3
5	上越教育	45.5	28	鳥取	29.3
6	東京学芸	44.1	29	香川	27.9
7	北海道教育	42.2	30	宇都宮	27.7
8	茨城	41.4	31	愛媛	27.2
9	宮城教育	40.6	32	琉球	26.5
10	福井	39.0	33	埼玉	26.1
11	秋田	37.9	34	鳴門教育	26.0
12	奈良教育	37.0	35	静岡	25.9
13	群馬	36.7	36	富山	25.7
14	大阪教育	36.6	37	岐阜	25.7
15	大分	36.3	38	三重	25.3
16	長崎	36.1	39	熊本	24.6
17	鹿児島	35.5	40	山形	23.8
18	弘前 (前年28位)	34.8	41	山梨	23.5
			42	横浜国立	23.3
			43	佐賀	23.1
19	京都教育	34.2	44	新潟	23.0
20	広島	34.1	45	岩手	22.6
21	金沢	32.7	46	高知	22.3
22	宮崎	31.8	47	鳥根	21.3
23	福岡教育	31.1	48	和歌山	19.7

職対策委員会では、同窓会のご協力を仰ぎ、特別講座や模擬面接などを実施

員養成率の成績を発表しましたので、合わせてお知らせします。この数値は、臨時講師と非常勤講師を含めた採用者数をその年の卒業生数で割ったもので、新卒の学生のみを対象としたものです。現在、わが国には教員養成課程を開設している国立大学が四十八あります。今発表された資料によると、弘前大学はそのうち十八位でした(前年度は二十八位)。平成十二年度採用試験の新卒の正規採用合格者数は過去最低でしたが、講師採用が多かったため、前年度の順位から大きく飛躍することができました。文部科学省が提示するこうした資料は、もし将来、教育学部の統廃合が実施された場合には、有力な根拠となり得るものです。教員採用試験の結果に、教育学部の命運がかかっているといっても過言ではありません。

対応と展望

して受験生の支援に努めております。昨年は、支援強化策の一環として、一昨年からスタートさせた教職特別講座を拡張し、三年次学生を対象として新たに後期講座を開設しました。

平成十二年度から生涯教育課程がスタートし、教育学部は新たな局面を迎えています。生涯教育課程は学生に教員免許状の取得を義務付けておらず、文部科学省も先にお知らせした教員養成課程と生涯教育課程の「住み分け」を考慮した就職対策が必要になって来るでしょう。教育学部の就職問題は依然として難しい状況のなかにありますが、これからも前向きに、精一杯の努力を続けていく所存です。

弘前大学の学部別・受験校種別・現役過年度別合格率  
 (採用内定者・採用候補者/受験者)

区 分	年度	現 役		過年度		合 計	合格 率	
		現	役	合	格			
教育学部	小 学 校	12	13/106	12.3	23/190	12.1	36/296	12.2
		13	9/ 97	9.3	33/224	14.7	42/321	13.1
	中 学 校	12	2/ 56	3.6	19/ 78	24.4	21/134	15.7
		13	9/ 61	14.8	9/ 90	10.0	18/151	11.9
	高等学校	12	1/ 10	10.0	4/ 28	14.3	5/ 38	13.2
		13	2/ 12	16.7	6/ 32	18.8	8/ 44	18.2
	養護教諭	12	0/ 20	0.0	3/ 42	7.1	3/ 62	4.8
		13	1/ 21	4.8	2/ 45	4.4	3/ 66	4.5
	合 計	12	16/192	8.3	49/338	14.5	65/530	12.3
		13	21/191	11.0	50/391	12.8	71/582	12.2



### 庶務報告

- 11. 6. 26 平成11年度総会
- 11. 9. 10 同窓会費納入依頼(1)
- 12. 1. 31 同窓会費納入依頼(2)
- 12. 1. 20 教員採用試験結果について
- 12. 2. 17 教育実習反省会
- 12. 3. 10 会報「あすなろ21号」発行
- 12. 3. 23 弘前大学卒業生・祝賀会
- 12. 3. 28 事務局打ち合わせ
- 12. 5. 18 平成12年度総会案内状発送
- 12. 6. 5 会計監査

☆ 教育学部（厚生係・会計係）  
との事務連絡は随時

平成十二年度弘前大学教育学部同窓会定時総会は、平成十二年六月十日（土）午後二時より、弘前プラザホテルにおいて開催されました。  
総会は、各支部から三七名の参加を得て、笹森義男弘前第二中学校長の議事進行により進められました。特に今年度は、弘前大学創立五十周年記念事業のことと、大学から教員養成系学生の削減により、教育学部の編成は学校教育教員養成課程（一六〇名）と生涯教育課程（七〇名）になることが報告されました。  
総会の議事内容は、次の通りです。



### 平成11年度収支決算報告書

### 平成12年度予算

○収入の部 (11.4.1~12.3.31)

○収入の部 (12.4.1~13.3.31)

	11年度予算	11年度決算	備 考
会 費	3,124,800	3,199,420	14,890×22名 14,880×193名
繰 越 金	532,912	532,912	
雑 収 入	2,000	423	利 子
計	3,659,712	3,732,755	

	11年度決算	12年度予算	備 考
会 費	3,199,420	2,678,400	14,880×180名
繰 越 金	532,912	867,510	
雑 収 入	423	500	利 子
計	3,732,755	3,546,410	

○支出の部

○支出の部

	11年度予算	11年度決算	備 考
総 会 費	160,000	173,644	総会補助
評 議 会 費	80,000	22,000	旅費を含む
支 部 活 動 費	450,000	450,000	50,000×9
会 費 徴 収 費	250,000	0	会費納入案内
通 信 費	60,000	44,020	総会案内、督促状 他
就 職 対 策 費	500,000	500,000	模擬面接官への謝金 他
教 生 対 策 費	250,000	250,000	教育実習運営協議会
大 学 院 対 策 費	200,000	49,281	文部省等打合せ旅費 他
特 別 対 策 費	150,000	150,000	特別講演謝金
卒 業 祝 賀 会 費	50,000	50,000	卒業祝賀会 他
会 報	230,000	230,000	あすなろ21号
新 会 員 名 簿 印 刷 費	38,000	0	
基 金	1,100,000	600,000	
事 務 費	100,000	100,000	大学事務費
事 務 局 費	200,000	200,000	事務局 事務謝礼
雑 費	66,712	46,300	職員録 他
計	3,659,712	2,865,245	

	11年度決算	12年度予算	備 考
総 会 費	173,644	170,000	総会補助
評 議 会 費	22,000	30,000	旅費を含む
支 部 活 動 費	450,000	450,000	50,000×9
会 費 徴 収 費	0	25,000	会費納入案内
通 信 費	44,020	50,000	総会案内、督促状 他
就 職 対 策 費	500,000	500,000	就職活動への補助 他
教 生 対 策 費	250,000	250,000	教育実習運営協議会
大 学 院 対 策 費	49,281	200,000	文部省等打合せ旅費 他
特 別 対 策 費	150,000	150,000	特別講演謝金
卒 業 祝 賀 会 費	50,000	0	卒業・修了祝賀会
教 育 開 発 活 性 化 経 費	0	300,000	ファカルティ・ディロップメント実施経費
教 大 協 担 当 校 支 援 経 費	0	500,000	教大協担当校打合せ旅費 会議当番校助成金 等
会 報	230,000	230,000	あすなろ22号
新 会 員 名 簿 印 刷 費	0	38,000	
基 金	600,000	200,000	
事 務 費	100,000	100,000	大学事務費
事 務 局 費	200,000	200,000	事務局費 事務謝礼 他
雑 費	46,300	153,410	職員録 他
計	2,865,245	3,546,410	

繰 越 金 867,510円

### 事業計画

1. 総 会
2. 教員採用試験結果について
3. 会報「あすなろ22号」発行
4. 弘前大学卒業生・祝賀会
5. 教育実習反省会
6. 反 省 会

### 特別会計基金（1年定期預金）

青森銀行

$$10,174,866 + 300,000 = 10,474,866 \text{ 円}$$

(11年度基金)

みちのく銀行

$$10,794,580 - 2,000,420 + 300,000 = 9,094,160 \text{ 円}$$

(弘前大学同窓会へ)(11年度基金)

平成十二年度役員

名誉会長 小澤 熹(教育学部長)

顧問 齋藤 善三(弘前市)

会長 木村清之助(弘前市)

副会長 笹 良夫(青森市)

中川原兵威(八戸市)

杉山 芬(青森市)

工藤 陸男(弘前市)

葛西 英之(向陽小)

塩原 鉄郎(弘前市)

太田 耕正(弘前市)

会計・監査

支部長

1. 弘前・中郡支部 笹森 義男(弘前二中)

2. 黒石・南郡支部 高橋 憲彦(小和森小)

3. 五所川原・北郡支部 小野 肇(五一中)

4. 西郡支部 赤坂 桂吾(吹原小)

5. 青森・東郡支部 奈良 年永(青森南中)

6. 八戸・三戸郡支部 新山 徹(八戸市)

7. 三沢・十和田・上北郡支部 梅田 真規(六戸中)

8. むつ・下北郡支部 布施 勝大(大間中)

9. 弘前大学教育学部支部 丹藤 進(教育学部)

10. その他の地区支部

評議員

1. 弘前・中郡支部

小野 禎亮(弘前市)

今泉 徹三(弘前市)

赤石 和夫(弘前市)

高岡 実(弘前市)

鈴木 弘(弘前市)

佐藤 健(岩木小)

佐々木利直(弘前市)

工藤 光男(弘前市)

佐藤 忠蔵(弘前市)

阿部 哲夫(弘前教委)

2. 黒石・南郡支部

秋田 豊(弘前市)

高木 了司(常盤村)

花田 幸三(岩木町)

奥崎 進(弘前市)

福士 兼義(田舎館小)

笠川 信明(黒石中)

栗林 欣一(平賀東小)

小野 信博(女鹿沢小)

3. 五所川原・北郡支部

加藤 修司(小阿弥小)

成田志津子(妙堂崎小)

小田川修三(喜良市小)

野崎 正人(金木小)

宮崎 和徳(飯詰小)

金澤 和生(羽野木沢小)

田中 初美(胡桃館小)

4. 西郡支部

高橋 秀一(木造町)

三上健之助(柏村)

黒滝 清昭(稲垣西小)

木村 健一(修道小)

中濱 和夫(鳴沢小)

三浦 則孝(柏小)

葛西 英之(向陽小)

徳田 洋光(木造西中)

5. 青森・東郡支部

平井 順治(県学セ)

吉田 秀一(小湊小)

奥崎 隆(東青教育事務所)

相沢 正雄(青森市)

種市 龍雄(佃中)

須藤 努(狩場沢小)

6. 八戸・三戸郡支部

成田 誠二(八戸市)

小松 史明(青潮小)

高橋 信夫(柏崎小)

関根 建夫(剣吉小)

大庭 紀元(南部中)

7. 三沢・十和田・上北郡支部

佐藤 久東(十和田市)

菊地 良久(十和田市)

山田 誠司(三沢市)

葛西 紀一(上北中)

石坂 敏夫(岡三沢小)

吉田 信彌(十和田湖中)

岩田 繁雄(若葉小)

川村 正(泊小)

8. むつ・下北郡支部

加世多寿雄(関根小)

奈良 光(大畑小)

竹浪 和夫(近川中)

松原 勝寿(苦生小)

工藤 魏(川内中)

石川 貞吉(むつ市)

9. 大学教育学部支部

盛 玲子(教育)

平岡 恭一(教育)

米内山千賀子(教育)

佐藤 武司(教育)

清藤 紀子(附中)

福岡 基高(附小)

葛西ゆう子(附養)

山口 裕子(附幼)

常任委員

相馬 正栄(北辰中)

伊藤 學(東目屋中)

葛西 一誠(船沢中)

中村真木子(北辰中)